NIE実践報告

１．タイトル：☆高校での3年間を見通したNIE活動について

２．学校名

大阪府立四條畷高等学校

３．実践者名（代表者名）

片山　徹

４．学年

第1学年

５．教科・領域名および受講児童・生徒数

LHR 1年5組　40人

６．単元（本時の学習課題）名

「新聞の見出しについて学ぼう」と「新聞の比べ読み」

７．目標（狙い）

NIE活動の一環として、LHRを利用して新聞の見出しのつけ方、各社による内容の違いを学ぶ

８．評価の視点

新聞の見出しのつけ方のうまさを学び、自ら見出しをつけるとしたらどのようにするのかを考える。また同じことでも、各社でかなり扱いが異なることを知り、記事の客観的な読み方について考える。

９．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

3年間を見通したNIE活動の中で、今年度は少しでも新聞を読むこと、新聞に書かれている内容について知り興味を持たせることを目標としていたので、クラスでもその一助になるようLHRで取り組んだ。

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

単独のLHRでの実践であり、学校全体の取り組みとしては、教科指導以外に、NIEで配達される新聞を、教室そばの廊下に置いて、少しでも新聞を読ませるような取り組みや、日直日誌に新聞記事の感想を書かせるなどの試みをする中で、平成20年の天皇陛下ご在位20年の記者会見についての記事が、全国5紙全てに掲載されており、各社が別に取材する事件などと異なり、全く同じ記者会見の内容の記事なので、比べ読みの教材として興味深いものと判断し、LHRで取り組むことにした。記者会見の内容については、各社とも全て載せるのにはスペースが足りず、各社Webでの紹介になっており、一番多く紙面を割いていた1社の内容で概要を紹介し、その他の社については、見出しのみ紹介して比較させることにした。また、生徒がどれ位この記事の内容を知っていたかも調査して、生徒の社会への関心度や日常の新聞閲読量を図る目安とした。

感想にもあるように、新聞の見出しのつけ方のうまさや、同じ記者会見でも着目点が全く異なっていることについては、十分生徒に理解させることが出来たと思う。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

＊記者ごとに重要視するところが違うのは当たり前なんだと思う。＊会社によって、着目する点が様々でおもしろい。＊同じような内容の記事なのに、見出しがこんなにも違うことにとても驚きました。＊それぞれによって興味のひかれ方が違うなと思った。＊見出し一つで会見のイメージがとても変わるんだと思った。

12．成果と課題

新聞を読む習慣をつけさせるための試みであったが、成果は十分に上がったとは、年度末最後のアンケートからは言えなかった。本校生の場合、新聞閲読の意義は、今回の実践も含め教科指導などを通じて、一定理解しているのだが、時間が無い、家で新聞を購読していないなどの理由で、なかなか読むことにつながらないという結果が出ている。次年度からは、この点も含めて、短い時間でいかに有効に読んでいくか等のテーマについても、研究して行きたいと考えている。